

お

おいてーおおか 追手風部屋

1998（平成10）年に瀬崎町に設立された大相撲の相撲部屋。親方は元前頭二枚目・大翔山の追手風直樹。西前頭十枚目（2008（平成20）年7月現在）の黒海関をはじめとする多くの有望な力士が所属し、稽古に励んでいる。ガラス越しに稽古を見学することもできる。

なお、市内には以前、元大関琴風が尾車親方として率いた尾車部屋（1987（昭和62）年5月～1992（平成4）年ごろ）があった。
〈昭和62年4月20日号・平成18年5月20日号〉

おおかわ ざ しよ 大川図書

〔？～1619（元和5）年〕
草加宿開拓者の一人。『草加宿由来』によれば、かつては土本氏を名乗る武士であり、小田原北条氏に仕えていたが、1590（天正18）年の小田原落城によって浪人となり、岩槻に滞在して年月を送っていた。徳川氏の天下統一のあとで、朋友であった伊奈備前守の計らいにより一時谷塚村に住んだが、その後篠葉村に移った。

言い伝えによれば1606（慶長11）年、付近の村々と相談し、茅野を開き、沼を埋めて、大きく東西に迂回していたそれまでの日光街道をまっすぐにする新道を開いた。そのほか、新田の



開拓、農業の奨励、寺院の建立など慈善公益の功績が大きかったという。図書が建立したともいわれる東福寺に残る彼の墓には、「松寿院道樹浄西禪定門 俗名大川図書」と刻まれている。

〈通史編上P386～・平成8年9月20日号〉
□草加宿 草加の歴史 東福寺 日光街道

おおかわ だい 大川邸

母屋は江戸末期の慶応年間（1865～1867）の建築で、本陣形態を持つ名主屋敷だった。明治天皇巡幸の際に行在所となった邸宅であり、明治天皇はここに3度立ち寄られた。1度目が1876（明治9）年6月2日奥羽巡幸の際、2度目は東北・北海道巡幸の往路であった1881（明治14）年7月30日、そして3度目は同年10月11日の同巡幸の帰路時である。旧邸のかたわらには行在所を示す記念碑がある。

1989（平成元）年には、市で制定している「まちなみ景観賞」（第2回）の保存景観賞を受賞したが、1992（平成4）年に老朽化のため解体された。

歴史民俗資料館には、歴史的価値の高かった同邸のレプリカが2002（平成14）年8月から展示されている。
〈通史編下P67・平成2年5月20日号・平成3年7月5日号・平成14年8月20日号〉

□草加宿 まちなみ景観賞 歴史民俗資料館



おおかわ へい ちろう 大川平八郎

〔1905（明治38）年～1971（昭和46）年〕
草加出身の映画俳優として知られる。

草加宿開拓者の一人であった大川図書の直系の家に生まれた。草加尋常小学校、郁文館中学を卒業したあと、渡米して苦学しながら演劇を学んだ。その後、ハリウッドで映画に出演。1932（昭和7）年に帰国し、1934（昭和9）年東宝映画の前身であるPCLに入社し、『ほろよひ人生』に出演。東宝映画設立と同時に同社に移籍し、『鶴八鶴次郎』『沼津兵学校』『南海の花束』など72の作品に出演した。

第二次世界大戦中の1943（昭和18）年、軍属としてフィリピンに応召。

終戦時、現地司令官・山下奉文大将が米軍へ投降する際に通訳として抜てきされた。戦後に東宝に戻ってからは、東宝と米軍の交渉に際して交渉役も務めた。

1957（昭和32）年、米国コロムビア映画社の『戦場にかける橋』に助監督兼俳優として参加。芸名はヘンリー大川で、この映画の役は大尉だった。

1971（昭和46）年5月27日、65歳で病没。
□大川図書

おお ず もう そう か ぼ しよ 大相撲草加場所

市制50周年を記念して、次世代を担う青少年に大相撲の迫力を間近で見てもらおうと、2008（平成20）年4月12日、スポーツ健康都市記念体育館を会場に開催。草加市出身の大翔岩、相山の郷土力士や、地元追手風部屋の黒海らも参加。朝青龍と白鵬の両横綱の結びの一番は、集まった約4000人の観客を大いに沸かせた。

大相撲草加場所は、市制施行30周年の1988（昭和63）年10月11日、同35周年の1993（平成5）年8月20日、



複製禁止

本市が『彩の国まごころ国体相撲競技の開催地に決定した2002（平成14）年10月14日にも開催されている。

〈昭和63年10月20日号・平成5年9月5日号・平成14年7月5日号・平成20年1月20日号・平成20年4月20日号〉

□追手風部屋

おお た わらし 大田原市

松尾芭蕉の『おくのほそ道』をとおして市とつながりの深い栃県黒羽町は、2005（平成17）年に大田原市、湯津上村と合併して新生・大田原市となった。旧黒羽町は自然が豊かで、農業、林業、観光の街として発展し、また、「芭蕉の里」のまちづくりを積極的に展開していた。1988（昭和63）年10月21日に始まった「奥の細道サミット」で市と交流を深め、青少年や俳句愛好者の相互訪問などが盛んである。合併後も交流は引き継がれ、毎年夏に実施される「ふれあい交流事業」では、那珂川での鮎つかみ取り、農産物の収穫、キャンプ・合宿等とおして、多くの子どもたちが大田原市の大自然とふれあっている。
〈通史編上P635～〉

□おくのほそ道 奥の細道サミット 松尾芭蕉

おくにっ こう し ぜん いえ 奥日光自然の家

小・中学生の自然体験学習および市民の憩いの場として開設している市の保養施設。1986（昭和61）年、市が「奥日光大学村」の施設を無償で譲り受け、改修して同年6月に開設したもの。中禅寺湖畔の奥、海拔1300mの千手ヶ原国有林内にあり、ミズナラ、カラマツなどの美林に囲まれている。

現在、宿泊施設4棟（445人収容）、体育室、クラブ室、キッチンハウス、広場などを備える。食事は三食とも可能。近くには西ノ湖、かくれ滝、小田代原などがあり、ハイキングや自然観察などが楽しめる。

■利用申し込み 2か月前から4日前までに市教育委員会学校施設・給食課へ。

〔電話〕922-0151
〈昭和61年6月5日号・昭和63年7月5日号・平成10年7月20日号〉

■奥日光自然の家

〔所在地〕栃県日光市中宮祠宮有無番地